

# C. そ の 他

## I 発表論文抄録

## Gas chromatographic-mass spectrometric determination of oxolinic acid in fish using selected ion monitoring

Keigo Takatsuki

J. Chromatogr. 538. (1991) 259-267

A gas chromatographic-mass spectrometric (GC-MS) method is described for the determination of oxolinic acid in fish tissues. Oxolinic acid is reduced with sodium tetrahydroborate to permit GC analysis. The sample is homogenized with phosphate buffer (pH 6) and extracted with ethyl acetate. The extract is partitioned between sodium hydrogen carbonate solution and the aqueous phase is acidified and re-extracted with ethyl acetate. The residue from the ethyl acetate extract is dissolved in methanol and reduced with sodium tetrahydroborate. The reduction product is extracted with diethyl ether and analysed by GC-MS in the selected ion monitoring mode for the ions at  $m/z$ -204, 219 and 176. The detection limit is 0.001mg/kg and the recoveries were 95.6% [relative standard deviation (R.S.D) 7.7%] at 0.1mg/kg and 72.9% (R.S.D 13.3%) at 0.01mg/kg fortification levels in fish.

## Ⅱ 学 会 发 表

## 学 会 発 表

○印 発 表 者

1. GC-MS, SIMによる魚介類中のオキシリン酸, ナリジクス酸, ピロミド酸の同時分析法  
○高 槻 圭 悟 菊 池 格  
第61回日本食品衛生学会 平成3年5月15~17日 東京都
2. 水道水の異臭味に関する研究  
○高 橋 紀 世 子 木 戸 一 博\* 小 野 研 一\*\* 白 地 良 一  
(\*現仙塩流域下水道事業所 \*\*現仙南保健所)  
第42回全国水道研究発表会 平成3年5月29~31日 長崎市
3. 小型球形ウイルスによる急性胃腸炎  
○山 本 仁 菅 野 信 一\* 梅 津 幸 司\*\*  
第27回宮城県公衆衛生学会 平成3年5月31日 仙台市  
(\*現宮城県石巻保健所 \*\*現宮城県気仙沼保健所)
4. 濾紙血液中のコレステロール検査法  
○白 石 廣 行 近 野 寿 美 枝 山 本 仁 沖 村 容 子\*  
(\*現宮城県大崎保健所)  
第27回宮城県公衆衛生学会 平成3年5月31日 仙台市
5. 東北からみた最近の患者発生動向の特徴と情報解析技法  
○助 野 典 義 三 浦 英 美 高 橋 富 基  
微生物技術協議会第12回研究会 平成3年7月18~19日 神戸市
6. 食中毒情報データベースの利用状況等について  
○内 田 隆 夫\* 助 野 典 義 山 本 仁  
(\*現宮城県黒川保健所)  
東北食中毒研究会第4回全体会議 平成3年9月4~5日 福島市
7. 新幹線鉄道騒音のレール削正による低減効果等について  
○加 藤 憲 治 榎 野 光 永\* 渡 辺 丈 夫\*\* 新 垣 康 秀 宮 崎 栄 一 郎  
柳 田 則 明\*\*\* 佐 々 木 俊 行\*\*\*\* 斎 藤 達 夫\*\*\*\*\* 菊 池 英 男\*\*\*\*\*  
(\*現宮城県原子力センター \*\*現宮城県大崎保健所 \*\*\*現宮城県岩沼保健所 \*\*\*\*現宮城県  
県下水道課 \*\*\*\*\*現宮城県石巻保健所 \*\*\*\*\*現宮城県環境管理課)  
(社)日本騒音制御工学会平成3年度技術発表会 平成3年9月18~19日
8. 新幹線鉄道による低周波震動の事例について  
○加 藤 憲 治 渡 辺 丈 夫\* 新 垣 康 秀 榎 野 光 永\*\* 宮 崎 栄 一 郎  
柳 田 則 明\*\*\* 佐 々 木 俊 行\*\*\*\* 斎 藤 達 夫\*\*\*\*\* 菊 池 英 男\*\*\*\*\*  
(\*現宮城県大崎保健所 \*\*現宮城県原子力センター)  
第17回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 平成3年10月8~9日
9. 宮城県におけるA型肝炎の血清疫学  
○菅 野 信 一\* 白 石 廣 行 山 本 仁  
(\*現宮城県石巻保健所)  
平成3年度地研北海道・東北・新潟支部微生物研究部会総会 平成3年11月21日 新潟市
10. 保健医療情報システムの導入とその利用  
○助 野 典 義  
第5回公衆衛生情報研究協議会定期研究会 平成4年1月31日~2月1日 東京都

### Ⅲ 研究発表会

## 第10回 研究発表会

日 時 平成4年2月28日(金) 9:20~16:15  
 場 所 宮城県保健環境センター大会議室  
 主 催 宮城県保健環境センター

## ————— 研 究 発 表 —————

○印 発 表 者

座 長 高 橋 正 弘 (環境管理課)

9:30~10:15

## 1. 白石川における冬期の高pH出現の原因調査について

水 質 部

○富塚 和衛 佐々木久雄 大場 修 濱名 徹  
氏家 顕

## 2. 古川市内河川の水質汚濁に関する考察

大 崎 保 健 所

○渡邊 泰至 沖村 容子 佐藤 由美 葛岡 勝悦  
仁平 明 細矢 義隆

## 3. 野積み畜産廃棄物の降雨による流出について

水 質 部

○佐々木久雄 大場 修 伏谷 均 氏家 顕  
大庭 和彦 (環境管理課)

座 長 小 林 孜 (理化学部)

10:15~11:00

## 4. 一般廃棄物処分場埋立地の実態と浸出水の経年変化について

環 境 衛 生 部

○大槻 良子 阿部 時男 白地 良一

## 5. トリハロメタン前駆物質に関する研究

環 境 衛 生 部

○木戸 一博 高橋紀世子 大槻 良子 白地 良一

## 6. 浄水処理工程におけるトリハロメタン生成特性

環 境 衛 生 部

○高橋紀世子 木戸 一博 大槻 良子 白地 良一

座 長 加 賀 谷 秀 樹 (大気部)

11:00~12:00

## 7. 市民アンケートに基づく快適環境指標の作成

情 報 管 理 部

○鎌谷 真男 中村 栄一 高橋 富基  
米山 達彦 (仙南・仙塩広域水道事務所)

## 8. 放射性降下物の地域的分布特性

原 子 力 セ ン タ ー

○小川 武 佐藤 健一 加茂 泰彦 石川 陽一  
須藤 幸蔵 村上 弘

## 9. 熱蛍光線量計(TLD)と電離箱検出による空間ガンマ線積算線量測定値との関係

原 子 力 セ ン タ ー

○加茂 泰彦 小川 武 佐藤 健一 石井 陽一  
須藤 幸蔵 村上 弘

## ————— 昼 食 ・ 休 憩 —————

12:00~12:45

座 長 永 井 和 夫 (環境管理課)

12:45~13:45

## 10. 多賀城地域におけるメタン濃度の変動について

大 気 部

○加賀谷秀樹 百川 和子 高橋 誠幸 宮崎栄一郎

11. 酸性雨自動測定結果について（第4報）－降雨中のpH-ECの時間変化－

大気部 ○百川 和子 加賀谷秀樹 高橋 誠幸 宮崎栄一郎

12. 宮城県内における酸性雨の地域特性について

大気部 ○斎藤 善則 鈴木 壽雄 庄司 幸雄 佐藤 博明  
宮崎栄一郎

13. 特定施設以外から発生する悪臭の実態調査

大気部 ○榎野 光永 佐々木俊行（下水道課）  
齋藤 達夫（塩釜保健所）

座長 高橋 紀世子（環境衛生部）

13：45～14：45

14. 鶏肝臓中の残留抗生物質ラーサロシドの確認

理化学部 ○高槻 圭悟 菊池 格

15. FPD-GLCを用いた食品中有機スズ化合物の分析法（第2報）

理化学部 ○佐藤 郁子 石川 潔 高槻 圭悟 菊池 格

16. 有機リン系農薬分解生成物のリン酸エステル化反応を利用したFPD-GLCによる分析法

理化学部 ○菊池 格 石川 潔 白取 博志 佐藤 郁子  
高槻 圭悟

17. 高速液体クロマトグラフィーによる食品中のサッカリンとグリチルリチンの分析法の検討

理化学部 ○小林 孜 菊池 格

座長 廣重 憲生（環境衛生課）

14：45～15：30

18. 腸炎ピブリオ食中毒の発生時期の変化に関する調査結果

情報管理部 ○内田 隆夫 助野 典義 高橋 富基

19. 一夜漬中における好塩菌の増殖経時変化について

大崎保健所 ○日野久美子 中村由香里 名久井敏男 葛岡 勝悦  
白地 良一（環境衛生部）

20. PCRによる下痢原性大腸菌の同定（第1報）－技法の導入－

微生物部 ○上村 弘 菅原 直子 白石 廣行 高橋 成人  
山本 仁

座長 荒井 富雄（微生物部）

15：30～16：15

21. 青葉山におけるツツガムシ生息調査

微生物部 ○植木 洋 玉手 美幸 菅野 信一 秋山 和夫  
山本 仁

22. 食肉動物のレプトスピラ抗体調査

仙北食肉衛生検査所 ○御代田恭子 小川 修平 千葉ゆかり 加藤 潤  
建入 茂樹 佐々木素子 中村 眞平  
秋山 和夫（微生物部）

23. 宮城県における神経芽細胞腫マス・スクリーニング

微生物部 ○伊藤 友美 加茂えり子 荒井 富雄 白石 廣行  
山本 仁

## IV 談 話 会



## 談 話 会

幅広く公衆衛生上の知見を得ることを目的として、所内外の講師に総説、最近のトピックス、現在の試験、研究等の話題を提供してもらい討論する会である。

原則として、毎月第3木曜日1時15分から所内会議室において開催している。

第103回：（平成3年11月）

「ヨーロッパにおける廃棄物処理」

保環センター所長 佐々木 智 司

## 宮城県保健環境センター年報執筆要領

1. (原稿の種類) 調査, 研究論文および資料とする。
2. (原稿の執筆規定)
  - (1) 原稿はB 5判(20×20字)横書き原稿用紙に楷書で明瞭に書く。  
学術用語は学会の慣例に従う。
  - (2) 原稿は表題, 著者名, 抄録, 序文(またははじめに), 方法, 結果, 考察(または結果と考察), 謝辞, 参考文献の順序に準じて記載する。  
資料も原則として, この順序に従って記載する。
  - (3) 著者に他機関の人を含む場合は, \*印付けて脚注に記載する。
  - (4) 参考文献は, 最小限にとどめ, 本文中の引用箇所(1), 2)~4)のように肩番号を付して示す。  
(記載方法)  
雑誌: 著者名: 雑誌名, 巻, 号, 頁(西暦年)  
単行本: 著者名: 書名, 版数, 頁, 発刊所(西暦年)
  - (5) 図, 表は別終に記載し, 表題を付け(表の題は表の上に, 図の題は図の下に)それぞれ図1, 表1のように一連の番号を付け, 本部のあとにまとめて綴る。  
図表の入る位置は, 本文中に赤字で示す。  
図あそのまま製版できるようにA 4版の指定用紙(オストリッチグラフ用紙)に, 黒インキで丁寧に書く。
  - (6) 写真は, 使用が不可欠の場合のみ, 強いコントラストを示すものに限って受付ける。
3. (原稿の提出) 原稿は毎年7月末日までに, 各部の編集委員に提出する。  
執筆規定に従っていない場合は, 書き直しを求める場合がある。  
原稿は返却しないので, 各自必要に応じコピーをとっておくこと。

## 編 集 後 記

昨年のこの欄では「暑さの印象が薄かった夏」と記したが、一転してこの夏は暑さが厳しく、残暑で音をあげた方々も多かったことであろう。

昨年来の旧ソ連邦の政変を始めとする歴史的変革を目の当たりにしてびっくりしたが、公害対策基本法に代り環境基本法の制定が検討されていることに象徴されるように、我々が携わる保健環境行政もターニングポイントを迎えているような気がする。社会情勢の変化を踏まえ行政需要に対応して行くには我々は何をすべきか考える姿勢がより重要になってくるであろう。

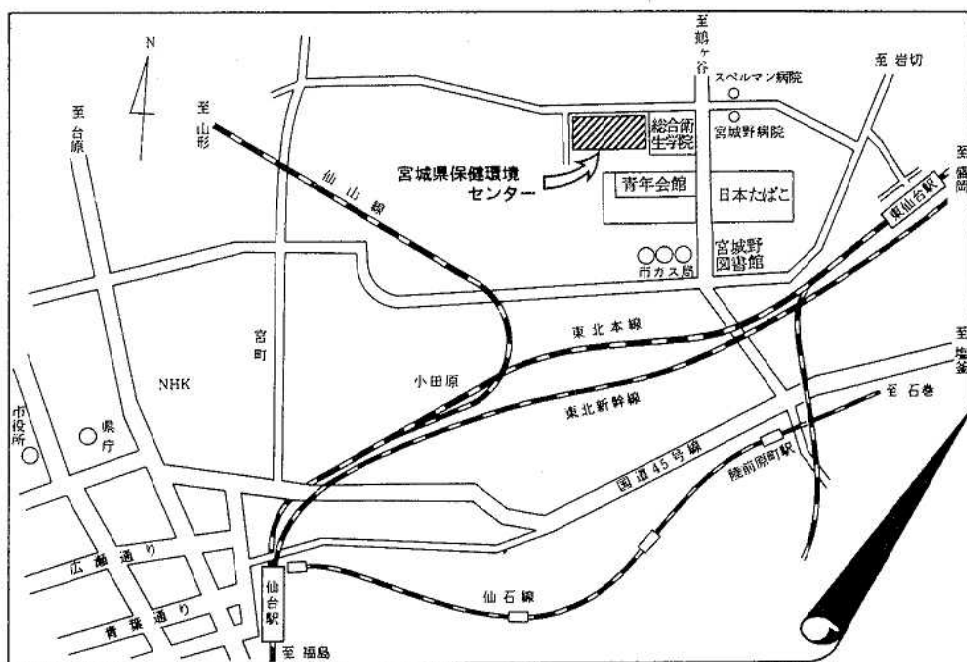
何はともあれ諸兄諸姉の業績をここにまとめ年報として発行できました。ご協力有り難うございました。

(高橋記)

## 編 集 委 員

高橋 富基(委員長)	葛岡 勝悦
助野 典義(副委員長)	小林 孜
畠山 章男	鬼頭 孝之
三浦 英美	新垣 康秀
鍵谷 真男	柳 茂

宮城県保健環境センター



宮城県保健環境センター 第10号  
(平成3年度)

---

印刷 平成4年11月

編集発行 宮城県保健環境センター

〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目7番2号

電話 022-257-7181 (代)

---